

川南町議会・令和6年9月定例会一般質問【 乙津 弘子 議員 】

(令和6年9月11日 午前9時58分 開始)

○議員(乙津 弘子議員) おはようございます。

すごい夏でした。川南町にとって大事な人が亡くなりました。私の隣の茶園のおばあちゃまが100歳で亡くなりました。何か、いろいろつらい夏でした。

そして、私の青春の人でもある、ヨーロッパの人ですけど、方が亡くなりました。分かる人は分かるかと思いますが、その人のその映画の歌を、メロディーを私が口ずさんで弔問のメロディーにしたいところではありますが、私は残念ながら音痴なので、俳句でもってそれを紹介したいと思います。私が作った句です。

「ドロン逝く あのメロディーよ 夏の海」

半世紀前の若者たちがたくさんいらっしゃいます。この歌で夏を終わりたいなと思っております。

質問は、質問席で座ってしたいと思います。

6月議会で、オーガニック給食のドキュメンタリー映画「夢みる給食」の上映について、一般質問で案内しました。小中学校への映画のチラシ配布を教育課に、保育園・幼稚園には福祉課にお願いしました。おかげさまで盛況でした。

サンA川南文化ホール図書館の2階ミニシアターで、8月17日・18日、午前・午後で計4回上映しました。教育長さんは御覧になってくださいました。感想、意見を遠慮せずに、3分などと言いませんので、存分に言っていただきたいです。

○教育長(長曾我部 敬一君) 乙津議員の質問にお答えします。

「夢みる給食」上映会を見ることができ、まず感謝申し上げます。

この上映会を見て、我々、生命を維持していく上で必要不可欠な栄養摂取の大切さを改めて再認識させられました。この上映会で感じたことを、かいつまんで3点ほど申し上げます。

第1点目。私ごとで非常に恐縮ですが、私自身、過去、玄米菜食、十六雑穀米等を通し栄養を摂取し、健康の保持増進を図った経緯があります。今で言うオーガニック摂取に相当するのではないのでしょうか。我が家ではもう既に興味、関心があり、オーガニックを取り入れております。

第2点目。食事は各家庭において、1日3食摂取することが通常となっております。その3食、ランチだけでなく、家庭内においてもブレイクファースト、ディナー、3食ともにオーガニック食事を摂取できることを願っております。

第3点目、まとめになります。

1番目、2番目を念頭に置き、組織の活用を図ることが効果的かと思います。例えば、例えばですよ、市議会議員、各学校PTA組織等へ上映会を実施し、広く裾野を広げて

いくことから始められることをお勧めいたします。

以上、上映会において感じたことです。

○議員（乙津 弘子議員） ありがとうございます。心強い感想です。

さきに上映が盛況だと言いましたが、観客の人数の点では多いというわけではございません。上映2日目の18日、日曜日はドームのコンサートと重なってしまいました。

「夢みる給食」という映画鑑賞の後、私が挨拶を、次に川南町でオーガニック農業をされている方がコメントを述べ、終了しました。結構な時間がかかりましたのに、来られた皆さんの多くが帰らないのです。映画見たらば一つと帰りますよね、大体。帰りにあそこでコーヒー飲んでとか、ビール飲んでとかね。

皆さん、オーガニックについて、学校給食に対して感想だけでなく意見、思い、気持ち、知識、いっぱいなのですね。スタッフに、また周りの人に話しかけ、語らいの輪ができていました。川南の方はもちろん、遠く小林市をはじめ他の市町村の方たちも来られていて、懸命に話していました。

川南の高齢の女性の方でしたが、私を待っていてくださいます。「私も何かしなければと思いました、頑張ります」と言ってくださいました。

書いてくださった感想から少し紹介します。

40代の川南町の男性は「自分に今できることはないか考えて、まずは食に関する職業の方とコミュニケーションを取って、実際の状況を把握したい」とおっしゃって書いていました。宮崎市の40代の女性は「感動したシーンはJ A（農協）が農薬を買わないというところ」と書いてありました。川南町の50代の女性は「全国でたくさんのまちが既にオーガニックを実現できていることに感動した」と書いてありました。

オーガニックについてどのように理解されているのか、ちょっと質問するに当たって不安になりましたので、町長に尋ねます。オーガニックをどのように理解しておりますか。

○町長（宮崎 吉敏君） オーガニック、つまり有機農業、有機農産物につきましては、今、国民の方々が自分の健康に対して非常に興味があると理解しています。

以上です。

○議員（乙津 弘子議員） ありがとうございます。有機農業という日本語でびったりなんです、そのとおりなんです。

よく、無農薬の農業というふうに理解している方もいますが、無農薬というのはその中の一つの条件であります。オーガニックは有機と同じと言えます。農薬や化学肥料に頼らず太陽、水、土地、生物などの生態の恵みを生かした、これ、農業だけでないんだそうです。農業、林業、水産業や加工方法を合わせて言うそうです。

ヨーロッパでは厳し過ぎるとかいろいろ言うたりもあるようですが、だんだん標準になっていっているようです。ですので、私、さっき100歳で亡くなられたお隣のおばあちゃんとこのお茶は、ドイツ、カナダ、あちこちに出しているようですが、非常に厳し

く、頑張ってやっておられます。有機農法のお茶屋さんというのは、川南町には2軒あるそうで、その1軒です。

上映した「夢みる給食」という映画は、ドキュメンタリーなんです。創ったものではありません。ドキュメント映画「夢みる給食」の監督はオオタヴィンさんという方です。その人の言葉をちょっと言います。

「教育には関心が高い保護者も教育者も、食、食べ物ですね、食には無関心なのがとっても不思議です。子供の脳細胞を作る原材料も今日食べた食品でできているのに、ぶつぶつ…。給食にはオーガニックなんてぜいたくだというおじさんもいますが、税金の使い道はここでしょって僕は言いたいのだ。子供たちは未来そのものだから、もっとすてきな学校御飯、保育園御飯、幼稚園御飯を食べてもらいたいのです」。

彼の意見です。私もまさにそう思います。

教育は建物ではないんです。食、フードなのです。

そして、読書。今年から3年間、町の小中学校の図書室が拡充されます。昨日、同僚議員が学力アップの対策も言っています。新中学校の建設、建物の建設で学力アップになりません。昨日の議会では、学校の建物にこだわり過ぎていると思いました。臭くないトイレと体によい給食があれば、安心して勉強できます。

日本国内のオーガニック給食を実現した夢みる市長、夢みる町長、夢みる公務員、夢みる有機農家たち、夢みるお母さん、夢みるドクターを紹介しています、映画。

夢みるドクターのお一人、満尾先生は「食べる投資」という本を書かれ、「日本医学は栄養学を教えない」と書いてあります。もう一人の渡辺先生は「糖尿病は薬なしで治せる」という本で、「日本の管理栄養士さんは医学を知らない」と言っています。

夢みる公務員のお一人、千葉県いすみ市農林課有機農業推進班長の鮫田さんは、男の方です。「私は、農林課の職員なので農業への効果が一番気になります。給食食材という、一定、量がまとまった需要を頂いてなら云々」と言っています。と、農文協の「有機給食が地域を変える」という本にも書いています。

農文協というのは知る人は知っていると思いますが、農山漁村文化協会という、一番やっぱりJAが最初なんではないでしょうか。たくさん本を出されていて、子供のコーナーに行くと「そだててあそぼう」「つくってあそぼう」という、これすごいんです、たくさんあるんです。

私は、勤務先の学校では必ずこれをそろえて、何十万円ってかかるんですね、全部そろえると。一冊1,800円です。自分自身がこちらで農業をとちらっと思ったときに、私も20冊ぐらい買ったんですが、非常にいい本です。絵も楽しい、結構字も多くて、長く時間かかるんですけどね、こういう本を出しているところです。

それから、「有機給食が地域を変える」、これは知り合いの人の本なんです、これを読ませてもらったときにびっくりしたんですね。農政ジャーナリストの会、ふんふんと思っただけ見たら、農文協の本なんだとびっくりしました。

読んでいたら、あれ、この人どこか聞いたなっていう人が、その映画で、今、言いました鮫田さんでした。この本で、その言っていたのは。この映画にも登場してきます。ちょっといかつい顔をしたおじさんです。

この人の言うとおりに、買ってくれるから栽培するんです。これね、何かね、ちょっとごめんなさい。前回、教育課長の三好さんが、つくっているところがあったらっておっしゃいましたが、やっぱり農業ってばくちですよ、ね、思います。いろんな仕事がそうだろうけど、特にそう思います。

こんなひどい気候の中で、そんな中で、やっぱりこれに使うから作ってください。1年目はちょっとな、2年前はちょっとなとなっても、やっぱりそういう意味で役所がひとつ一歩。例えば、こんな映画の中で言っていました。「ニンジン1本からでも」と言っていました、ひとつ子供たちのために、一歩出ただけたらと思います。買ってくれるから栽培するということですね。

次、行きます。実は農業だけでなく、私は夢見ているんです。すぐ夢見るんですけどね。

オーガニックをP L A T Z（ぷらっつ）で販売したら売れるなと思いました。ブランド野菜です。

大体、高速行く人はみんなお金持っていますね、大体。P L A T Z（ぷらっつ）のレストランのディナー、ランチよりディナーのほうがもうけます。私は大阪でかなり長くおったもんですから、すぐもうけるかどうかは頭にきてしまうんですね、ごめんなさい。

オーガニックメニュー、野菜、果物、お米の販売がメインのおすす村、そしてふるさと納税でも、ふるさと納税にこれを盛ってもいいんだそうです。なんて、夢見ています。

何ととっても、しかし、学校給食が公的な一番安定した需要です。高齢者の食事を販売・配達している社会福祉協議会のサービス、老人ホームの食事サービスもそれに次ぐ安定した需要と思われます。高齢になると免疫が低下し、病気になりやすいんです。私もそうです。

さきに紹介した満尾先生は、元気になる食事は医療費の3分の1で済むと言っています。地産地消とオーガニック給食が子供たちの心と体にとって、さらに日本の農業にとっていかに大切かを、みんなで考えるきっかけにというドキュメント映画です。

無料でオーガニック給食の保育園、幼稚園、小中学校があれば、ファミリーの移住が増えることが必至です。

いっぱい紹介しました。川南町での少しでも実現の可能性をお聞きしたいのですが、町長いかがですか。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問に関して、学校給食の立場からちょっと申し上げさせていただきたいと思います。

まず、川南町の学校給食におきましては、川南町産、町内産の食材をできるだけ多く使えるようにということで、地産地消の給食を推進しておるところでございます。

また、生産者の思いを受けながら食べる給食は、食育にもつながるというふうに考えております。

先ほどから、有機野菜について素晴らしいものだというお話をたくさんいただいたところなんですけど、学校給食の立場といたしましては、川南町産でオーガニックの食材が、質及び量で十分確保できれば、オーガニック食材を取り入れた学校給食も可能になるというふうに考えております。ぜひ、そのような農家さんがいらっしゃれば、野菜を契約して入れていただくということになるのかと思うんですけど、その方法とかも、まず、実現する前に御相談、お話しするというのも必要なというふうに考えております。

以上でございます。

○議員（乙津 弘子議員） ありがとうございます。何か、一歩、二歩進んだ感じがします。

実は隣の木城町で、この22日に「オーガニックフェスタ in Kijō」というイベントが開かれます。木城町のドームというんですかね、木城町総合交流センターリバリスで開かれます。地球と体に優しいこだわり農産物や加工食品が、木城町に集結するそうです。宮崎県内のこだわり生産者たちが出品するそうです。

川南町でも、オーガニックへの理解を町民の皆様に深めていただくために、再度年明けぐらいに「夢みる給食」を再上映しようと思います。前回同様、教育課、福祉課の皆さん、御協力をお願いいたしますが、いかがでしょうか。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

前回もお話をいただいて後援させていただいた上で、パンフレットの配布をさせていただきました。こちら、いろいろ勉強になるものであると思いますので、また御依頼があれば、パンフレットの配布等を行いたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議員（乙津 弘子議員） ありがとうございます。

そしたら次に、移住の条件ということなんですが、移住というと、若者、ヤングファミリーに対してという考え、施策、特典になっているように思われますが、内容、特に年齢制限等教えてください。

○町長（宮崎 吉敏君） 乙津議員の質問にお答えします。

今、年齢的なものということの質問だったと思います。川南町が移住支援制度に先を見据えて、満55歳未満の年齢制限を設けています。

以上です。

○議員（乙津 弘子議員） 55歳、若いですね。これを決めたのはいつ頃でしたでしょうか。

○まちづくり課長（稲田 隆志君） すみません、決めたのがいつかというのは、幾たびか改正もされていると思うので、いつこの年齢になったかというところまではすみません、私、把握しておりません。

以上でございます。

○議員（乙津 弘子議員） この55歳というのは、55歳以上の人が川南町に入って来たらあかんということでは、憲法で人はどこにでも住めますので、それではなくていろんな意味の55歳と制限ですね、特典とかそういうのとおっています。

ところで、高齢者の移住のメリット、全然頭にないんじゃないかなということをちょっと以前に思っていたら、若者というか40代の方に聞きましたので、そのことを言います。

高齢者の移住のメリットについて、最近出会った大阪からの移住者が話してくれました。彼はサーファーです。川南の海がサーフィンにぴったりなので引っ越してきたそうです。ところが40代ということで、いろいろ仕事探し等苦労したようです。

私たちは50代後半に、私と連れ合いですね。川南の土地を買い、家を造ったのですが、地方への移住が歓迎される少し前だったのでしょうか。私たちは役場の対応に四苦八苦しました。

このサーファーさんが言うには、高齢者はお金を持って引っ越してくるのにと言うんですね。私たちがお金があるというわけではありませんよ。さらに、高齢者の後ろに、私はここを思っているんです、都会で働いている子供世代がいます。テレビで見ました。じいちゃん、ばあちゃんが移住した海辺のまちに、大家族の息子世代が遊びに行っているうちに、えい、やーと合流したんです。仕事があったのでしょうか。

我が家も、東京で働いている息子一家が合流したいようです。オンラインでやれる仕事だったらと言っていますが、孫たちも宮崎が、川南が大好きです。夏冬の帰省のたびにトロンでおもちゃを買い、じいじにもらった図書カードでJ Aの書店で絵本を買います。図書カードはもちろんJ Aの書店で購入します。

まちから本屋さんがなくなるという、非常におっかないことがどんどん進んでいるので、私は基本的にはその本屋さんでしか本は買わない、出かけたときに、どうしてもここでしかないなという本とか週刊誌等は仕方ないんですが。

さて、ところが、昨年夏の帰省が台風で吹っ飛び、今年は南海トラフで諦めました。孫は大泣きだったそうです。その津波が、涙の津波が来るんじゃないかと、私たちは笑ってしまっただけです。

また、高齢者は買物を町内ですることが多いのです。昨日、町長さんの言葉の中で、町内で資金が回るということですね。

私は1年の半分以上、草履を履いているんですが、これはもう佐藤はきもの店しか買ったことがないです、何年も。そういう形で川南町の、それから食べ物屋さん、飲み屋さんほとんど川南町です。この市町内で資金が回るということに、私は本当に自分じや協力しているつもりでおるんですが。

また、今どきの高齢者は元気です。人手不足の助けにもなります。高齢者の移住のメリットばかり言いましたが、デメリットもちろんあります。でも、移住対策はこれな

んです。どこの市町村も似ています、似通っています。

一つ高齢者の移住の勧めも付け加えたら、特色が出るんじゃないでしょうか。いかがでしょうか、町長。

○町長（宮崎 吉敏君） ただいま、乙津議員の質問にお答えします。

町としては、今現在、移住等に対する支援策というのは、乙津議員がおっしゃった対策はまだ考えられていません。ただ、おっしゃいました、地元にも、また新たな職にということも十分考え、一番できることは、そういったことも踏まえてできることは、高齢者が生き生きと生活しやすい環境を町が築いていく、このことに尽きるんじゃないかなと思っています。

また、年齢等の55歳という制限がありましたけど、このことについては、今までにいろんな議論があって決定されたものと承知しておりますので、今現在の支援、また、先ほど言いました高齢者に対しては、様々な環境を整えるということで進めていきたいと思っています。

以上です。

○議員（乙津 弘子議員） ありがとうございます。大いに期待しております。

次に移ります。

4月1日に孤独・孤立対策推進法がスタートして半年目になります。具体的な計画と実施状況を伺います。

○町長（宮崎 吉敏君） 孤独・孤立についてということでの御質問でした。お答えします。

国の法律が施行され、国の重点計画等が示され、地方公共団体にも関係機関によって構成される孤独・孤立対策地域協議会の設置が努力義務となっています。しかし、具体的な時期や方法等は示されていないため、今後の動向を注視していきたいと考えます。

また、現在の社会情勢としては、社会全体のつながりを希薄化している中で、コロナ禍を経てひきこもりやいわゆる8050問題、ダブルケアなど孤独・孤立の問題が顕著になってきている状況と承知しております。川南町としましては、第3期川南町地域福祉総合計画に基づき、孤独・孤立問題の解消に向け各種施策を進めているところです。

また、孤独・孤立問題のみならず、地域住民の複雑化、複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、今年度から重層的支援体制整備事業に取り組み、子供や障がい者、高齢者といった対象者だけでなく、要介護や虐待、生活困窮といったリスクに対応する体制を整えていくことにしております。

以上です。

○議員（乙津 弘子議員） ありがとうございます。

ただ、国が具体的なものを出していないというのは、何なんでしょうね。選挙に忙しいのかしら。

じゃあ、次のみんなの学校にいきます。期待しておりますが。

3月議会で、善処の方向へ持っていけたらと感じましたので、2つの委員会のほうで検討していきたいという答えがありました。その後の動きはいかがですか。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

その後の動きということなんですけど、具体的に教育委員会のほうで何か動いたということはございません。ただ、この間からのお話にあったように、何か場所をつくるというのになると、なかなか長期で構想を練らないといけない考えになるかと思います。

実際に何もできないのかというところなんですけど、学校で学んだことを学び直しをするということであれば、生涯学習の一環としてそういう講座をつくり、それで学びたい方に学んでいただくというのも一つの方法かと考えております。

以上でございます。

○議員（乙津 弘子議員） 難しいかと思いますが、それとかかわると思うんですが、この4月に宮崎市で公立夜間中学、宮崎市立ひなた中学校が開校しましたね。夜間中学については有名な映画があって、もう大分、随分前に皆さん感動して見られていると思います。

さて、このひなた中学校のことを知った知り合いの女性、高齢です、お二人が、うちらも勉強したいなと言っていました。聞けば、ほかにもおるでしょうね。

高齢者向けの講座、いろいろあるんですよね、だけど、ちょっとだかな、結構みんな中高年になって長いので、いろいろやっているんでしょうね。そして意外や、小学校、中学校の普通の勉強をしたいそうです。これは、私も学校教育評価委員として小学校、中学校回りましたが、自分もそこにちゃんと座って勉強したいなと思うことが何度もありました。

特に女性の場合は、技術を、家庭科と技術が別々でしたので、今どきの女の子がのこぎりを持って、格好よかったです。私はのこぎりが下手なんです。どっちにやるのか、こっちにやるのかと、いつも四苦八苦するんですが、ほかにも理科なんかまるで忘れていました。それで、独り暮らしになる可能性が女性たちは特に多いので、理科、技術、ちゃんと勉強しておきたいと。アンペアもワットも分からなくなっているんですよね。

それで、私は思ったんですが、夜間中学は、基本的に中学校を卒業していない方、または卒業したけれど不登校とかそういうので欠席も多く、ほぼ勉強していない方のためというのになっているんですが、人生90年、100年時代、今、教育課長もおっしゃられたように、学び直しの学校があってもいいのではと思います。

それで思うんですが、夜間中学って言葉が一人歩きしていますが、高齢者には夜間中学でなく昼間中学がいいのかなと思います。毎日でなく週2回ぐらい学校へ。いっそのこと土・日は高齢者が学校を使うというのもいいですね、あります。川南の人口の4割近い高齢者の生きがいの一つになります。

学び直し、今、リスクリングっていう言葉、はやってますよね、活性化。今、世の中の大きなテーマです。私の公約、みんなの学校の出番です。昨日の三原議員の高齢者の

憩いの場もみんなの学校の中にあっていいと思います。どっちか言うとメインかな。

それですが、学校を箱物として捉えるべきではないでしょうか。時間差で、町民みんなが使うといいですね。

私が卒業した大阪の公立高校は、昼間は全日制、夜は定時制、土曜の午後と日曜は通信制の人が使っています。通信制の生徒は、おじさん、おばさんが多かったと思います。夏休みは、そして各種の試験場に使われるんです。いろいろな試験があるんですよね。私も教員採用試験を高校3年生のときの教室で、偶然ですが、受験しました。実にフル回転で使われ、経済効率抜群の学校です。だから、教室に掲示物が一切なかったのです。そんな気がします。

以前、教育長が西ドイツの学校を紹介してくださいましたが、私の高校はそんな感じでした。高齢者の認知予防にもなるかと思います。いかがでしょうか。お答えください。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

まず、高齢者向けのということなんですけど、教育委員会のほうでは、高齢者教室、それから山茶花ふれあい学園というのが実施されております。ただ、先ほど議員がおっしゃったような学校の勉強の学び直しというような内容にはなっていないところです。

あと、学校のほうをそういうことに使えないかということなんですけど、学校も地域に開かれた学校という、そういう考え方もあるところではあるんですけど、現状の今の小中学校を見ているところでいきますと、なかなかそういう利用というのは難しいのかなという感じであります。

ただ、こういう構想というのは持って、どうにか工夫ができないかというのは考えていく必要があるというふうには考えております。なかなか学び直しで講座を、ということで学校を利用して、いきなり入っていくというのはなかなか難しいところなんですけど、ぜひ、いろいろそういうことをやりたいという方で考えていただいて、そういう学びの場というのを設けていくといいかなと思います。

まずは、生涯学習センターの1階とかそういったところを利用して始められるのが、一番取っつきやすいところかなというふうには感じているところです。

以上でございます。

○議員（乙津 弘子議員） 一歩までいかないけど半歩進んだ感じがします。ありがとうございます。

次なんですけど、不登校の子供たちというのは、みんなの学校のメインでもあるんですが、教育課で、不登校の子供たちに教育委員会で新たな対応を始めているということで、その対応を紹介してください。

○教育課長（三好 益夫君） ただいまの御質問にお答えいたします。

不登校の児童生徒への対応ですけど、まず、今までやっていたというのが、生涯学習センター、教育課のある建物の3階にフロンティアルームというのを設置しております。こちらのほうに不登校の生徒の皆さんがここにいらっしゃれば出席したことになると

いうことでやっていったところです。

今年度になって県の事業を利用して、唐瀬原中学校にひなたルームというのを設置しております。こちらもなかなか通常の学級で学習しづらい生徒の皆さんが、こちらのほうに来て学ぶという場所ができているところです。

今後も児童生徒のためにできることはやる体制でということで、臨んでいこうというふうに考えております。

以上でございます。

○議員（乙津 弘子議員） ありがとうございます。

そうなんです、やっていることが、もっと本当にみんなに発信していただけたら、あ、そういうこともありかとかなると思うんです。

ただ、私自身としては、唐中の不登校の子が唐中の部屋に行くのはつらいやろうなと思います。ですので、ちょっとその辺は、子供たちの心に添って考えてほしいなと思います。

次に、予定していました町政運営方針については、少しずつですが、町長のお言葉を聞きましたので、私は申し訳ないんですが、すみません、省かせてもらってよろしいでしょうか。

何か、町長がおっしゃりたいようでしたら、言っていただけたらありがたいんですが。魅力あふれるまちづくりを進める中でということなんです。

もう、あちこちで言うたって言うたら、それでいいんですが、格好いい言葉を高齢者にかけてくれたらありがたいですね。

○町長（宮崎 吉敏君） 乙津議員の今の質問に対してお答えしたいと思います。

昨日から皆様の御質問に対してお答えしてまいりました。改めてここで申すということとは考えておりません。

以上です。

（ 午前 10 時 43 分 終了 ）